

検証保育・検証授業4 安座名有里教諭（糸満市立米須小学校）

去る1月29日(木)に米須小学校で行われた、安座名有里教諭の小学校道徳の検証授業は、葛藤資料を活用しての授業でした。学級の子どもたちは、発表の仕方や聴く姿勢が大変すばらしく、きまりや約束を守ることに一生懸命考えて発表している姿が印象的でした。

指導講師の新垣千鶴子先生からは、「児童が話し合い活動に積極的に参加していた。これは、授業に臨む土台がしっかりできていることでありすばらしいことである。また、ワークシートが工夫され児童が主人公の考えをふきだしとして書いたり、自分の気持ちを視覚的に表しやすくなっている。改善点として、45分で授業を完結できるように論点を絞って発問すること。道徳性を高めるために子ども達の発言や意見を的確に捉えて、発問を行うことが必要である。」等の指導助言をいただきました。

授業後の検証授業研究会では、「日々の授業を振り返り改善していることが良い。本時の授業でキーワードとなる言葉を教師の発問の端々に入れ込んでいくことが大切である。そして、子どもが一学期に比べどのような手だてをしてどのようにかわったかを把握することが大切である。」等の意見がありました。

野原泰校長先生をはじめ、米須小学校の多くの先生方が授業参観をしていただきました。全校体制で有里先生の研究を支えてくださっていることが感じられる検証授業でした。

【研究テーマ】

よりよいものの見方や考え方を見出し、
道徳的価値の自覚を深める道徳授業の工夫
～考えを深める話し合い活動を通して～



写真1 検証授業の様子

【授業仮説】

- ① 話型表や聴き方名人表を活用することで話し合い活動に積極的に参加していたか。
- ② 葛藤場面の設定・発問の工夫をすることで、道徳的価値の自覚（価値理解、人間理解、他者理解、自己理解）を深めることができたか。
- ③ ワークシートの工夫をすることで、よりよいものの見方や考え方を見出すことができたか。
- ④ 自己評価・振り返りの活動の工夫をすることで、自らの道徳的な成長を実感させることができたか。



写真2 検証授業研究会の様子

検証授業を終えて（安座名有里）

検証授業本時の授業を行ったが、反省の多い授業となってしまいました。児童は話し合いのルールが少しずつ定着してきており、話型や聴き方を意識して話し合い活動に参加していました。また、児童同士で言葉のキャッチボールができるようになってきたのもよかったです。葛藤場面では児童が登場人物の気持ちになって真剣に考えていたと思います。しかし、発表する児童は多かったのですが、「きまりはなぜあるのか。なぜ守らないといけないのか」という価値の自覚を深める発問ができなかったために、児童の考えの深まりが弱くなってしまいました。また、時間配分がしっかりできていなかったため、最後まで終えることができませんでした。この反省点を活かして、残り1時間の検証授業では自分の納得できるような授業展開を目指していきたいと思っています。新垣千鶴子先生からいただいた指導助言をこれからのまとめに活かしていきたいと思っています。